

第3回家庭教育支援指導者等研修 実施レポート

日時：令和3年10月20日（水）10時～15時 参加者：71名（うち市町村等から48名）
 研修方法：全日程 Zoom によるオンライン研修

前回に引き続き、Zoom を使ったのオンライン研修を実施しました。「保護者が前向きになる関わり方やつながり方を学ぼう」というテーマのもと、カウンセリングマインドについてや、静岡県掛川市のアウトリーチ型支援等について学びました。演習では、学んだことを各市町村やチームの実情に応じて取り入れようとする前向きな発言や姿が見られました。

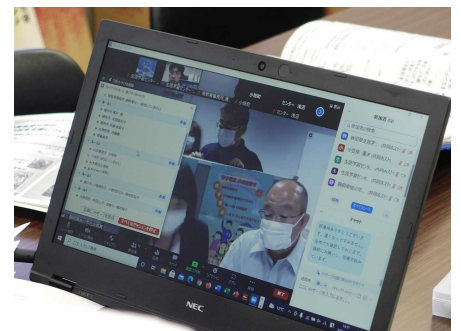
【午前の部 講話・演習】

横手市不登校適応指導教室の教育相談員である**佐藤 さゆ里**氏より、「カウンセリングマインドを親子の良好な関係づくりに」と題し、お話いただきました。はじめに、カウンセリングにのぞむ態度や家庭教育におけるカウンセリングマインドの効果のイメージを共有しました。先生はカウンセリングの際、よく相談者の自己イメージを確認するそうです。相手が適切な自己イメージを獲得したり、自己肯定感をもったりできるように、カウンセリングマインドがある家庭教育を勧めてくださいました。保護者が子どもの今日までのがんばりと大好きなことを見つめることで、子どもの“全体”をステキなものとして一緒にとらえ伝えることが大切と強調しました。演習では、「非言語のコツ」「言語のコツ」「リフレイミング」を体験しました。また、演習「ねぎらいのイエスセット」では、保護者が聴いてくれる人との出会いや、がんばっている日々をねぎらわれるチャンスを得ることによって、自分に生まれたゆとりや穏やかさを家庭教育に生かしていくことのよさを感じ取ることができました。最後に先生は「人はたった一人の出会いによって変わる。皆さん自身が誰かにとっての『たった一人』かもしれない」と結ばれました。



【午後の部 講話・協議】

静岡県掛川市教育委員会教育政策課の皆様は、昨年度の全国家庭教育支援研究協議会において「すべての保護者に届くアウトリーチ型支援」と題して実践紹介をされました。本研修では、主査**大熊 茂広**氏、社会教育指導員**鈴木 光子**氏、社会教育指導員**大倉 由美子**氏が講師を務められました。アウトリーチ型支援とは、保護者に寄り添い届ける支援のことです。掛川市では、家庭教育支援を市の教育振興基本計画の主要施策に位置付けており、市民総ぐるみの教育を推進しています。社会教育委員会の提言から生まれた「和・学・愛・楽」という家庭教育の合言葉のもと、家庭教育サポートチームつなぐが誕生。幼稚園・保育園・認定こども園・小学校・中学校・子育てサロン・支援サロン等に訪れ、グループワークのファシリテーター・講話講師・相談サロンにおける相談員を務め、保護者同士を「つなぐ」、保護者と園・学校、地域、機関を「つなぐ」役割を担っています。チームを派遣するうえで重要なハブの役目を果たすのが、市教育委員会職員3名で構成された事務局の運営です。「①学校と連絡をする。②サポーターと連絡をとる。③当日、学校とサポーターをつなぐ。」といった連絡調整の実際を、事務手続きごとに順を追って説明してくださいました。アウトリーチ型支援は、学校側としても教師のメリットが多く、各講座の依頼が増える、リピートする学校が多いといった成果があるそうです。協議では“つながるシート”を使い、「地域の子どもに声をかけよう」という題で掛川版グループワークを体験しました。話し合うことで保護者同士がよりつながることができ、自分の子育てを見つめ直すよい機会になることを実感することができました。



【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・リフレイミングは、相手に自信をもたせてくれる素敵な見方（味方）！ねぎらいのイエスセットでは、互いの信頼関係の重要性を深く感じた。これから家庭教育支援チームの一人として、出会いを大切にしていきたい。
- ・学校PTAに出向いての支援は、保護者が出向く必要がないというメリットと、学校側が社会教育の有り難さを実感できるよい機会だと思う。県内各市町村でも、社会教育側から仕掛ける取組が望まれているのではないだろうか。